

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 **教務委員会**

(責任者名) **西内 章**
 (役職名) **教務部長・教授**

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムは、ITリテラシー、データサイエンス入門、AI概論、プログラミング基礎の4科目7単位を修得要件として構成している。具体的な実績として、令和7年度の履修者数は277名、修了者数は1名であり、文化学部159名、看護学部13名、社会福祉学部64名、健康栄養学部41名が履修している。開設初年度であり、かつ修了要件に2年次以降配当科目を含むことから、修了者数が少数である点は制度設計上も自然であり、履修者は全学的に着実に確保されている。プログラムは1年次から段階的に学べる構成となっている。
学修成果	学修成果として、情報社会の構造や情報セキュリティ、デジタル倫理に関する理解に加え、確率・統計の基礎、データ要約・可視化、Rを用いた統計解析、AIの基本概念と応用、さらにPythonによる代表的アルゴリズムの実装力を段階的に身に付けられる点が挙げられる。各科目は、情報技術の理解、データサイエンス的思考、AI活用の基礎理解、プログラミング実践を相互に接続する設計となっており、学生が自らの専門分野において数理・データサイエンス・AIを応用するための基礎力の形成に寄与している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	理解度に関して、現時点では、授業内課題、小レポート、期末試験、演習への取組状況から、基礎的事項については概ね理解が進んでいると考えられる。授業評価アンケートの目標達成のサマリーは、5点満点中以下のとおりである。 ITリテラシー 平均値 4.1 データサイエンス入門 平均値 4.0 AI概論 平均値 3.7 プログラミング基礎 平均値 4.0 一方で、統計解析やプログラミング実装の場面では学生間の習熟差も想定されるため、今後はアンケートの自由記述や到達度評価を活用し、つまづきやすい箇所を科目ごとに把握して授業改善へつなげる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本プログラムは、情報リテラシーからデータサイエンス、AI、プログラミングへと体系的に接続する構成であり、専門分野を問わず有用性が高い。そのため、学生アンケート等においては、将来の学修や進路に役立つ内容として後輩に推奨しやすいプログラムであると評価されることが期待される。特に、AIやデータ活用が医療、福祉、文化、地域課題の解決など幅広い分野に関係することを授業内で扱っている点は、他学生への推薦意欲を高める要素である。今後は学生ニーズを詳細に把握し、大学広報にも反映していく。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	履修実績では、全学の履修者数は277名、履修率は20%であり、学部間では差がみられるものの、複数学部にわたり履修者を確保できている。現時点では開設初年度として一定の進捗が認められる一方、看護学部など履修率の低い学部への働きかけが今後の課題である。履修率向上に向けては、入学時オリエンテーションや履修ガイダンスでの周知強化、学部ごとの学修モデルの提示、科目間接続の見える化を進めるとともに、令和9年度以降は履修登録上限単位数(CAP)内で履修しやすいカリキュラム上の改善も検討していく。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和7年度からの開設であり、まだ卒業生は出ていないため、現状では評価はできないが、今後継続的に進路等の調査や卒業生調査、卒業生の就職先からの意見聴取などを実施することを検討している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	会員となっている「数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム四国ブロック」での会員校間の交流や同一法人が運営する高知工科大学のデータ&イノベーション学群との交流などにより、産業界からの意見を得られることが見込まれる。また、産業界との交流機会において、本プログラムの内容・手法等について意見をいただき、さらなるプログラムの充実に努めていきたい。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムでは、情報技術の歴史、社会のデジタル化、データ分析の実践、AIの最新事例、プログラミング演習を通じて、数理・データサイエンス・AIが抽象的な知識ではなく、現実社会を理解し課題解決に生かすための道具であることを学ばせている。具体的には、Rによる分析演習やPythonによる実装、AIの医療・教育・ビジネスへの応用事例を扱うことで、学ぶことの面白さと社会的意義を実感できる構成としている。学生が自分の専門分野との接点を見いだせる点も、本プログラムの重要な特徴である。
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	各科目では、基礎から応用へと段階的に学べる授業設計を採用し、講義と演習、課題、小レポート、試験を組み合わせながら理解の定着を図っている。データサイエンス入門ではR/EZR、プログラミング基礎ではGoogle Colab上のPython演習を取り入れ、実際に手を動かしながら学べる工夫を行っている。また、AI概論では生成AIやTransformer等の新しい技術動向も扱っており、社会の変化を踏まえて講義内容をアップデートしている。今後も教務委員会による自己点検・評価のもと、アンケート結果や学修成果を踏まえ、教育内容・方法を継続的に見直していく。